



Title	おわりに
Author(s)	敦賀, 和外
Citation	GLOCOLブックレット. 2014, 13, p. 68-69
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50054
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



【第2章】

海外派遣支援団体の
経験から



おわりに

敦賀和外

大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任准教授
(FIELDOグループ長)

「Your security is our concern, but remains your responsibility (あなたの安全は我々の関心事ですが、あなたの責任事項です)」。私が国連職員としてアフガニスタンで働いていた際、警備担当のスタッフがこの言葉を繰り返していたことを記憶している。学生の海外派遣を担う立場になって以来、大学としてどこまでリスク管理をすればよいのか考えさせられる。勿論上記の国連の警備担当のようなスタンスで学生を海外に送り出すわけにはいかないが、さりとてあまり慎重になってリスク管理ばかりに気を揉むと、派遣をしないことが最善という結論になってしまう。バランスをどのようにとればよいのか。本ブックレットは、GLOCOL/ FIELDOがこれまでこの問いにどのように向き合ってきたかを示す、試行錯誤の軌跡である。

近年、「今の若者は内向きだ」との言説が巷に溢れている。しかし本当にそうだろうか。それは若者に原因があるのであろうか。過去3年間FIELDOで学生の派遣に関わった経験からみると、むしろ若者が海外にでることを躊躇せざるを得ない社会環境や制度にその原因があるように思えてならない。大学に頼らずとも海外にでて素晴らしい経験をしている学生もいるが、大学が少し背中を押してあげればその後海外への関心が高まり、意識が変容する学生も多くいる。大学のプログラムが対象とすべきはこの「あと一步」層で、FIELDOでは、「背中への押し方」を教職員で考えながら派遣プログラムを実施してきた。背中への押し方が強すぎても弱すぎてもいけない。リスク管理はその強弱をコントロールするための重要なツールである。本ブックレットで示されたリスク管理体制が完成形ではないが、これまで大きな事故もなく学生を派遣してきたことは、幸運に恵まれただけでなく、リスク管理を重視し実践してきたことの成果でもあろう。

「学生の海外派遣を増進させる」、「グローバル人材を育てる」、言うは易し行は難し。「God is in the details(神は細部に宿る)」。この言葉を心に刻み、これからも細部にこだわって学生が安全に海外で学べるよう支援していきたい。

今後本ブックレットの読者とともに、学生の海外体験学習とそのリスク管理の在り方について議論を深めていければ幸いである。